

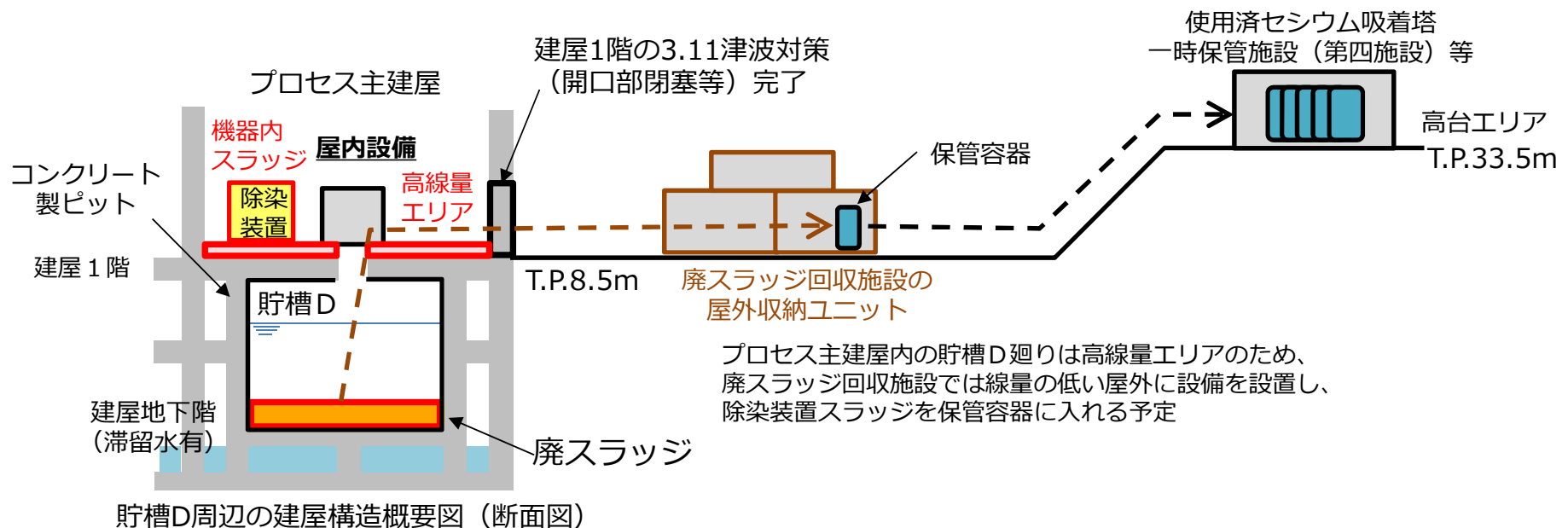
廃スラッジ回収施設の設置に向けた干渉物撤去作業他について

2025年9月25日

東京電力ホールディングス株式会社

1. 廃スラッジ回収施設の概要

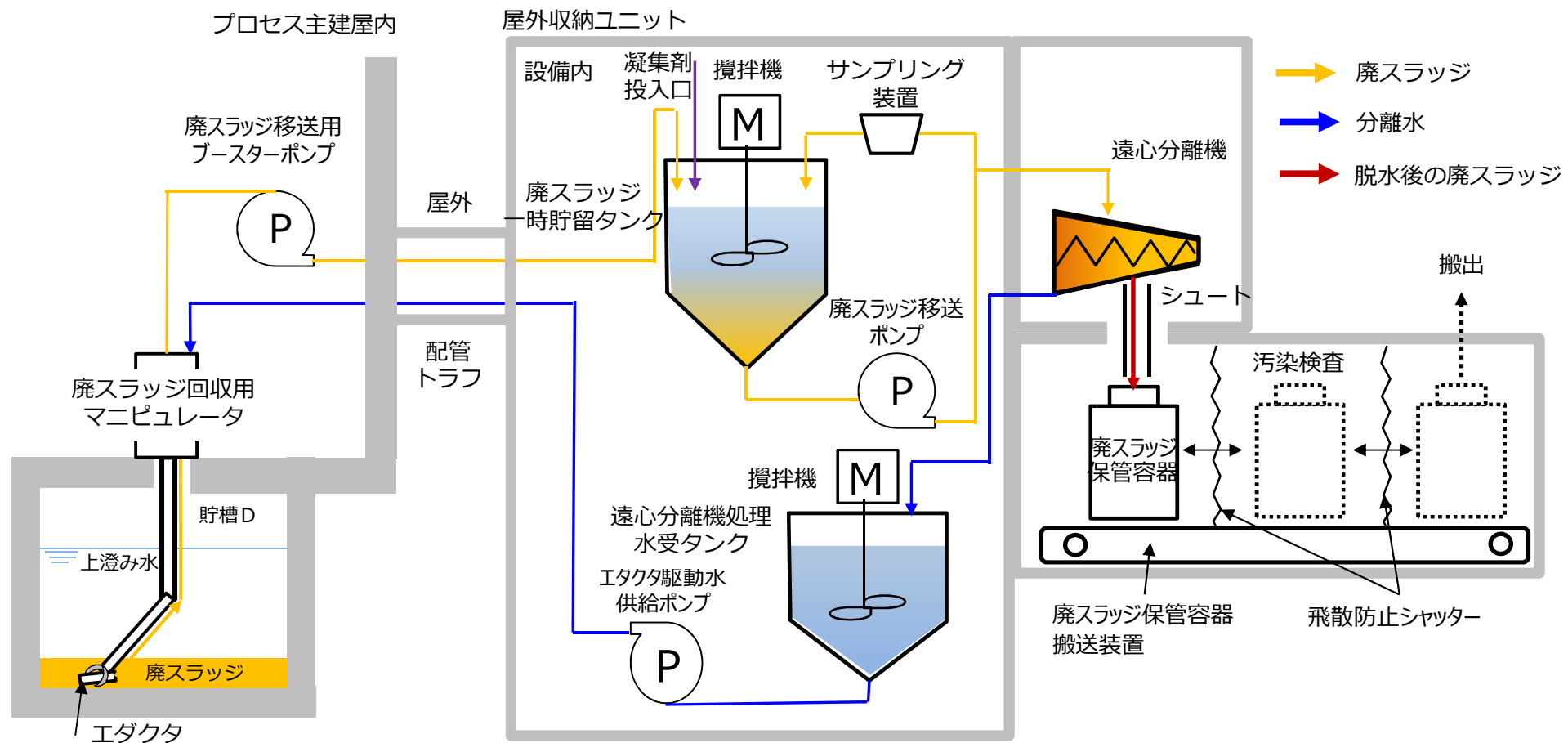
- プロセス主建屋に設置した除染装置は、震災後に発生した汚染水进行处理するため、2011年6月～9月にかけて運転。運転中に発生した高濃度スラッジ(放射性物質を凝縮したもの。以下、廃スラッジという)については、同建屋内の造粒固化体貯槽(D)(以下、貯槽D)に貯留。
- プロセス主建屋はT.P.8.5m盤にあるが、津波の引き波による廃スラッジの屋外流出リスクについては、既往最大事象3.11津波対策として、建屋の開口部である出入口、管路貫通孔の閉塞等を実施。(2018年9月完了)
- 現在、既往最大事象を超える津波への備えとして、3.11を超える津波（検討用津波）への対策を目的に、貯槽Dから廃スラッジを抜き出し、保管容器に入れて、検討用津波到達高さ以上の高台エリア（T.P.33.5m盤）に移送する計画。



廃スラッジの津波対策

2. 廃スラッジ回収施設の概要

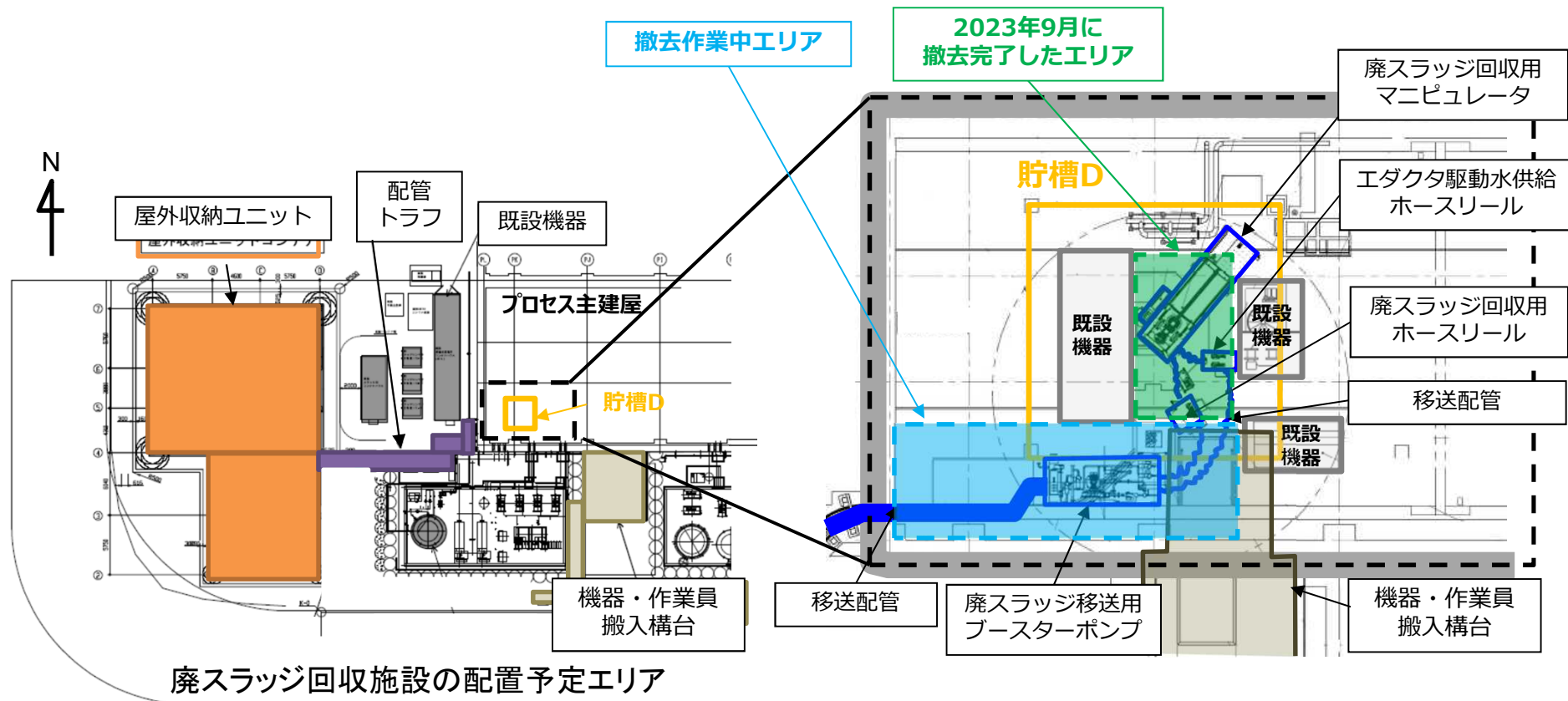
- 貯槽D内の廃スラッジを、廃スラッジ回収用マニピュレータ先端のエダクタにより吸引する。
- 吸引した廃スラッジは廃スラッジ移送用ブースターポンプを介し、プロセス主建屋外に設置する屋外収納ユニット内の廃スラッジ一時貯留タンクへ移送し、遠心分離機にて脱水処理を行う。
- 脱水処理した廃スラッジは直下の廃スラッジ保管容器にシュートを通じて充填し、分離水は遠心分離機処理水受タンクへ貯留し、エダクタの駆動水として再利用する。



廃スラッジ回収施設の系統概略図

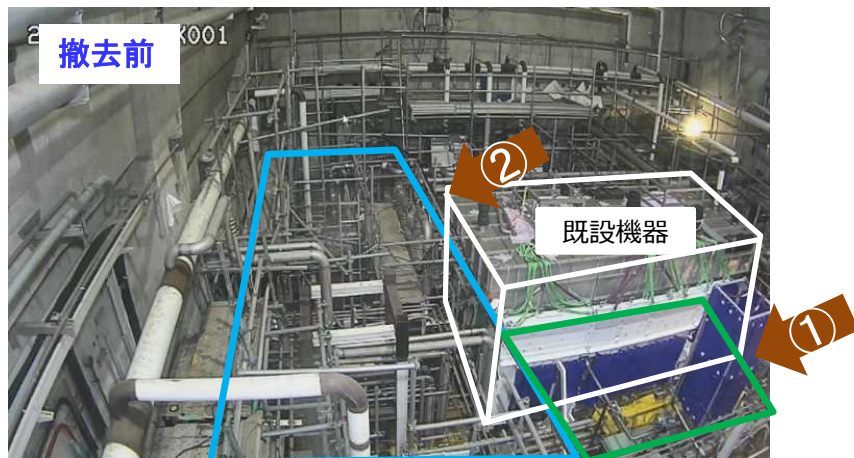
3. プロセス主建屋内の干渉物撤去について

- ❑ 廃スラッジ回収施設のうち廃スラッジ回収用マニピュレータ、廃スラッジ移送用ブースターポンプおよび移送配管等は、プロセス主建屋内の貯槽D上部および建屋の南西側に設置する計画だが、震災後に設置した除染装置の配管等と干渉するため、その撤去が必要となる。
- ❑ 廃スラッジ回収用マニピュレータ等を設置する貯槽D上部の干渉物撤去は2023年9月に完了し、廃スラッジ移送用ブースターポンプおよび移送配管等を設置するプロセス主建屋南西エリアの干渉物撤去は2025年9月までに完了する予定。



3. プロセス主建屋内の干渉物撤去について（プロセス主建屋南西エリア） **TEPCO**

- プロセス主建屋南西側の主な干渉物は、配管、足場、サポートであり、高所の設置された配管の撤去には、被ばく低減のため遠隔操作で配管切断する装置を使用。



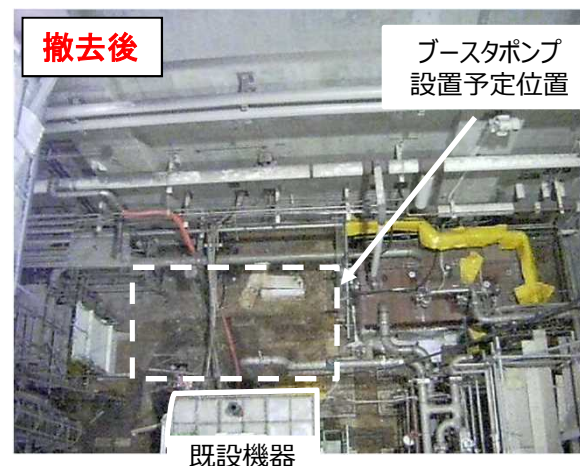
廃スラッジ回収施設の設置に干渉する範囲



①の矢視



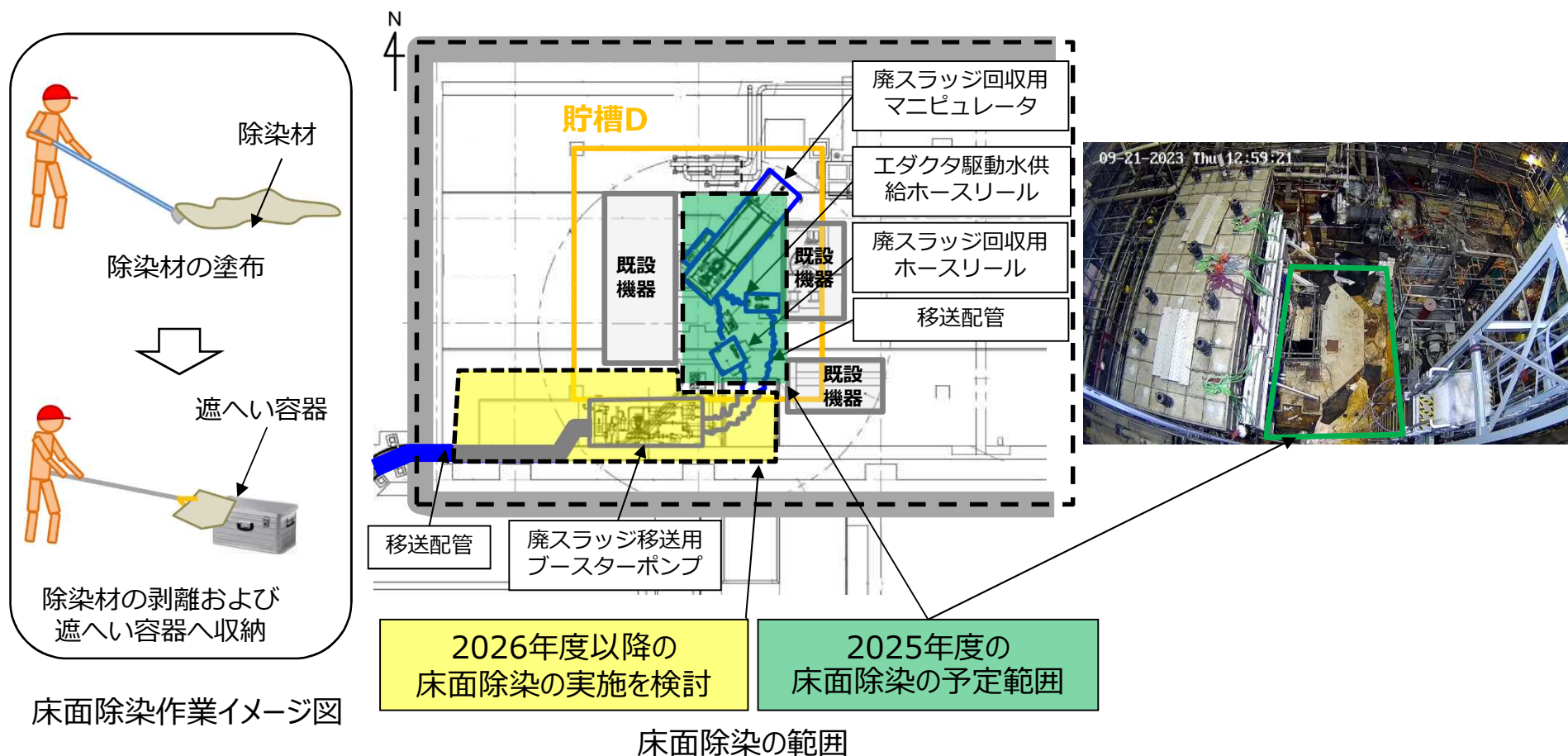
②の矢視



4. プロセス主建屋内の線量低減について

□ 床面除染作業について

- ・床面に除染材を滴下して除染範囲に塗り広げ、除染材の乾燥後、柄付きのスクレーパー等を用いて床面から剥離する。
- ・剥離した除染材は、まず遮へい容器に収納し、その容器を廃棄物収納用のコンテナに入れて廃棄処理する。
- ・床面除染を行う間、オフラインAPDを着用し、ダストモニタで作業エリアの放射性濃度を測定・監視する。



5. 工程

- 2025年9月でプロセス主建屋南西エリアの干渉物撤去は完了予定。
- 今後、廃スラッジ回収施設を設置するエリア（貯槽D周り）の床面除染および貯槽Dの開口閉止を行う計画。
- 床面除染後に環境線量測定を行い、その後のプロセス主建屋内の線量低減の内容検討（遮へい設置、南西エリアの床面除染等）に活用していく。

